



**2005年度第3四半期(FY05Q3)
連結決算説明資料
〔米国会計基準〕**

2006年2月1日

日本電産株式会社
www.nidec.co.jp/

2005年度 第3四半期(FY05Q3) 連結決算説明資料
〔米国会計基準〕

第3四半期決算のポイント

- 売上高、当期利益とも過去最高を更新。
- HDDモータの売上・数量は過去最高を更新し、前年同期比29%増収。
- 「精密小型モータ」は前年同期比21億円の増益。
- 一方、その他4事業セグメントは前年同期比、計17億円の減益。

—注意事項—

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績、及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。

2006年2月1日

 日本電産株式会社

2

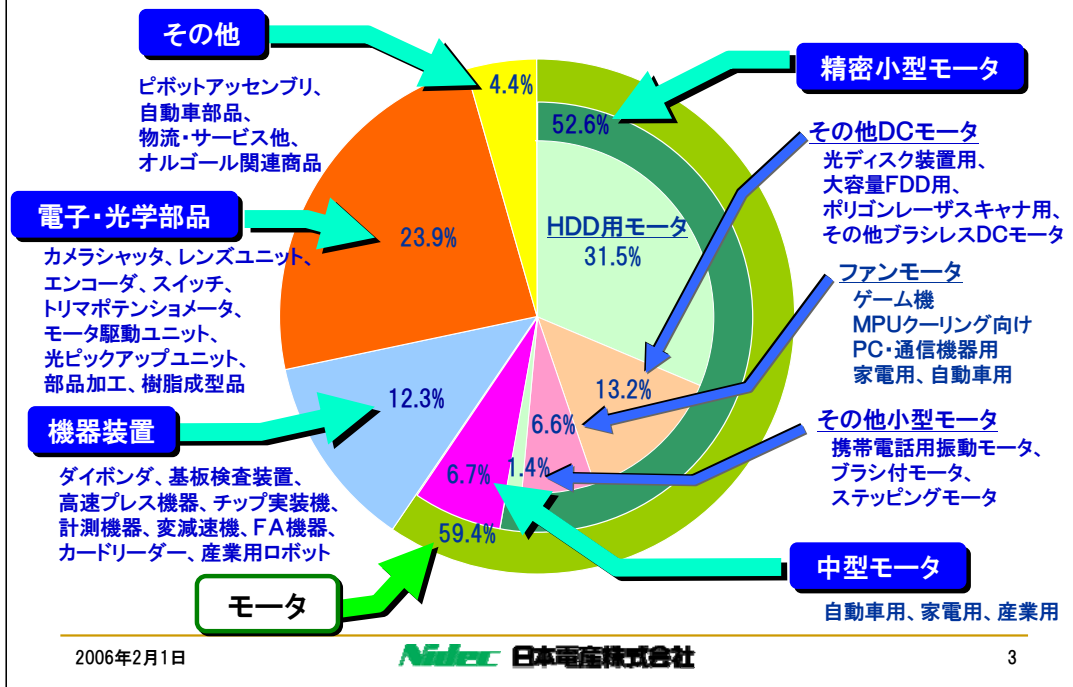
第3四半期決算のポイント

当期の第3四半期(以下3Qという)は四半期決算として、売上、当期利益とも過去最高を更新しました。

コアビジネスであるHDDモータの売上・数量は過去最高を更新し、売上は前年同期比29%の増収となりました。HDDモータの好調が牽引し、「精密小型モータ」の営業利益は前年同期比21億円の増益となりましたが、その他の「中型モータ」「機器装置」「電子・光学部品」「その他」の4事業セグメント合計で前年同期比17億円の減益となりました。

これらの内容について次ページ以降で説明いたします。

事業別売上構成(FY2005Q3)



事業別売上構成(FY2005Q3)

「精密小型モーター」及び「中型モーター」で構成するモーター事業は、全ての事業売上高の約59.4%を構成しています。また「機器装置」及び「電子・光学部品」、「その他」事業の売上構成はそれぞれ12.3%、23.9%、4.4%となりました。

損益計算書(前年同期比較)

(単位:百万円)	FY04Q3	FY05Q3	増減	9ヶ月累計	FY05見込
売上高	128,224	136,729	+6.6%	392,903	520,000
営業利益 (営業利益率)	14,481 (11.3%)	15,003 (11.0%)	+3.6%	40,081 (10.2%)	55,000 10.6%
税引前利益	12,182	19,638	+61.2%	49,825	60,000
当期利益	8,096	12,124	+49.8%	32,525	40,000
一株利益(円)	57.3*	84.4	+47.3%	227.3	279.8
対米 ^{ドル} 為替レート					
平均...	106.0円	117.4円	+10.7%		
期末...	104.2円	118.1円	+13.3%		105.00円

*2005年9月30日を基準日として実施した1:2の株式分割をベースに調整

2006年2月1日

 日本電産株式会社

4

損益計算書(前年同期比較)

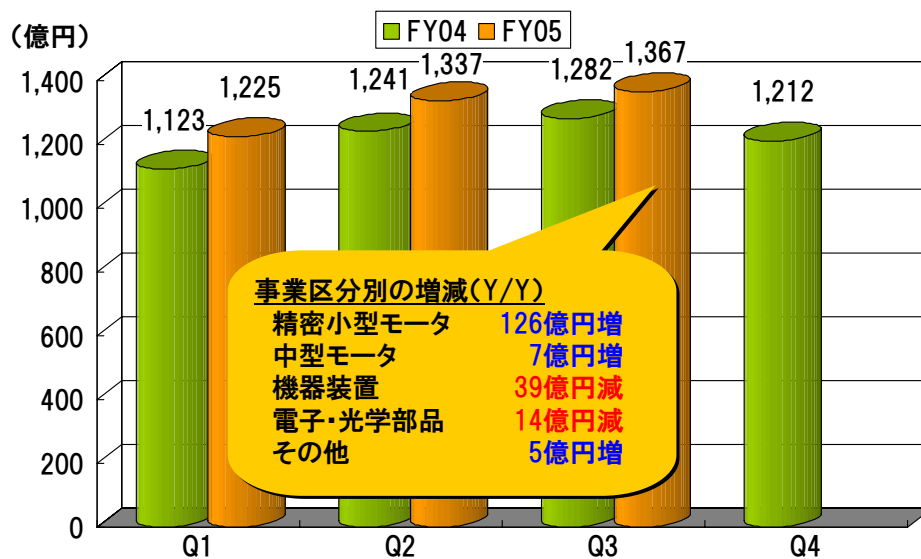
当期3Qまでの9ヶ月の連結業績は、中間業績に引き続き前年同期比で増収増益を継続しております。売上高累計額は3929億03百万円で前年同期比7.8%増、営業利益は400億81百万円で3.9%増であります。また連結純利益も325億25百万円と34.7%増であります。

以下は中間業績以後の第3四半期業績について前年同期と比較報告いたします。

当期3Qの売上高は1367億29百万円となり、前年同期比85億05百万円の増加(6.6%増)となりました。営業利益におきましても150億03百万円と前年同期比5億22百万円の増加(3.6%増)であります。税引前利益は196億38百万円と前年同期比74億56百万円の増益となりました。この結果、当期純利益は121億24百万円で前年同期比40億28百万円の増加となりました。

なお直前の当期第2四半期との比較では、売上高は30億54百万円(2.3%)増加いたしました。営業利益は4億73百万円(3.1%)の減少となりました。当期純利益は5億17百万円(4.5%)の増益であります。

売上高の推移(四半期別)



2006年2月1日

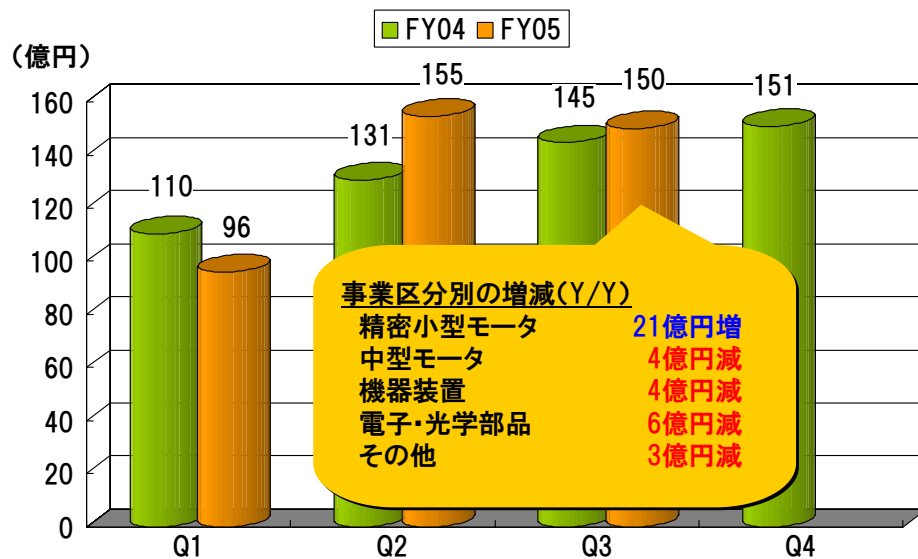
Nidec 日本電産株式会社

5

売上高の推移(四半期別)

第3四半期の売上高は全体では前年同期比で85億05百万円(6.6%)の増収となりましたが、精密小型モータ事業の売上増加が126億19百万円と全体の増加額を上回り、機器装置や電子・光学部品事業の売上は前年同期より減少するという歪(いびつ)な結果となりました。

営業利益の推移(四半期別)



2006年2月1日

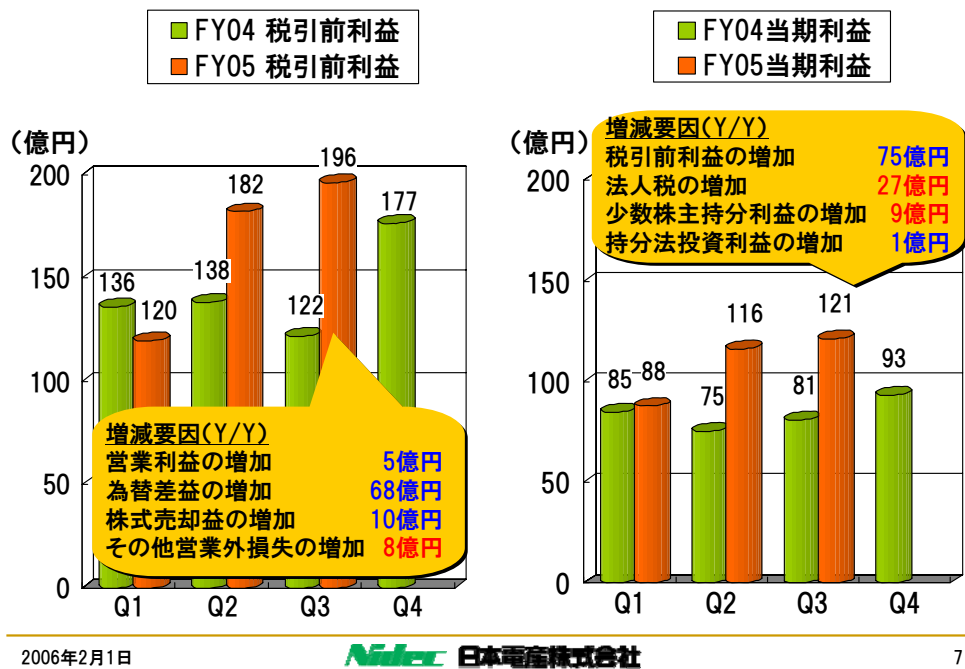
Nidec 日本電産株式会社

6

営業利益と営業利益率の推移(四半期別)

利益面におきましては、当期3Qの営業利益は150億03百万円で前年同期比5億円強(3.6%)の増益となりました。当四半期は営業利益面においても精密小型モータの増益分が21億円強となり、他の事業分野はすべて減益となりました。

税引前利益と当期利益の推移(四半期別)

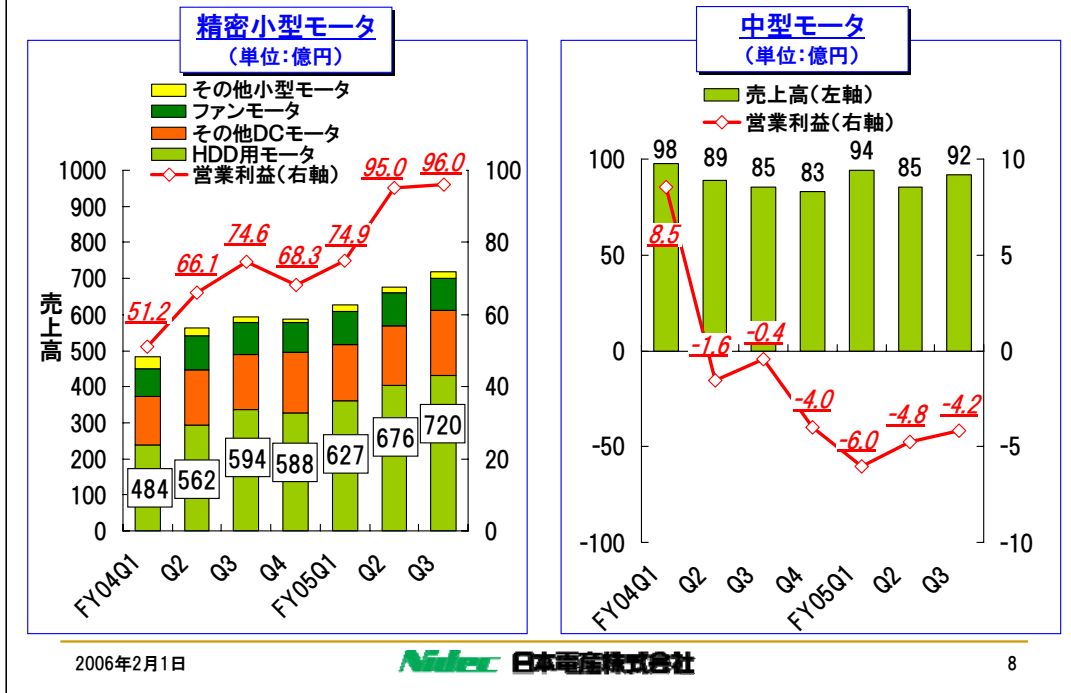


税引前利益と当期利益の推移(四半期別)

税引前利益が196億38百万円と前年同期比74億56百万円の増益となったのは、営業外収支における為替差益の増加(前期の為替差損の減少と合わせて)が67億52百万円発生したこと、有価証券売却益の増加10億25百万円などによるものであります。

当期純利益は121億24百万円で40億28百万円の増益であります。法人税等は26億79百万円増加し、少数株主持分利益も8億65百万円増加した結果であります。法人税の増加は為替差益や株式売却益等による国内課税所得の増加が原因であります。また少数株主持分利益の増加は日本電産サンキョーの利益増に伴う少数株主持分利益の増加によるものであります。

事業区分別情報<精密小型モータ、中型モータ>



事業区分別情報<精密小型モータ、中型モータ>

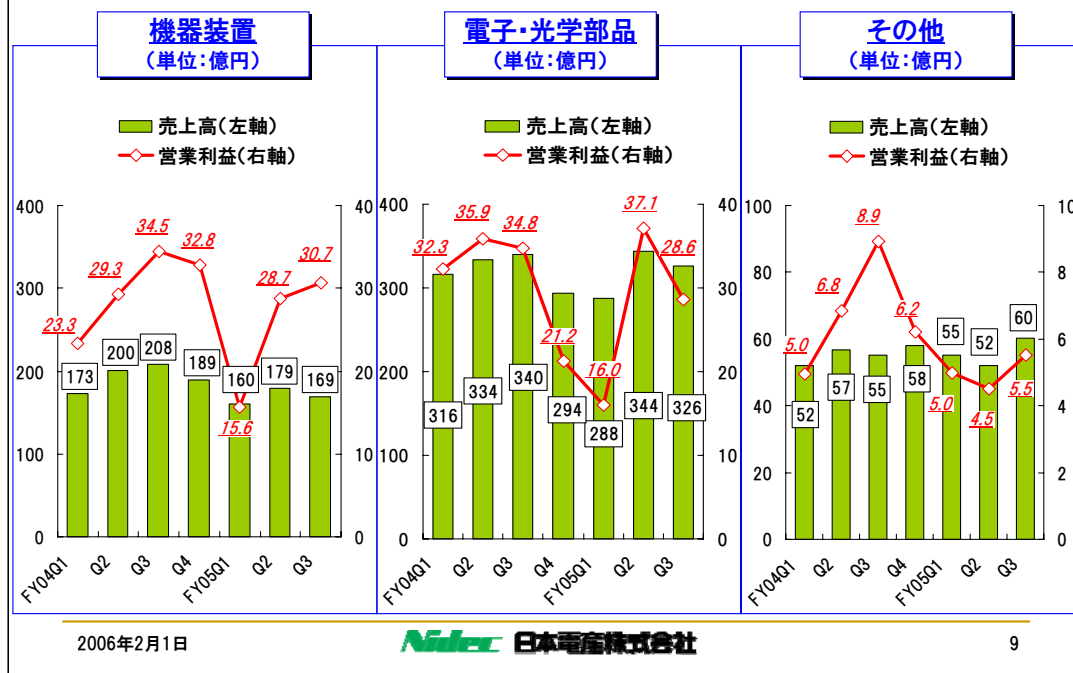
「精密小型モータ」事業の売上高は719億71百万円となり前年同期比で126億19百万円(21.3%)の増加となっております。

「精密小型モータ」では、HDD用モータや光ディスク用モータの強い需要に支えられて利益を拡大いたしました。従って増収増益基調は継続しているものの、主力のHDD用モータは1インチのマイクロドライブの減少により、また12月の最終局面に入って採算機種種の2.5インチを中心に客先の引取りが鈍り利益面でも影響を受けました。また前年の第3四半期は売上・利益ともかなり高水準となっていたこともあり利益の改善幅は予想を下回りました。

「中型モータ」事業の売上高は91億95百万円と前年同期比7.7%の増加であります。この増加のうち自動車用モータの売上高が約5億円で1.6倍となっております。他の家電用と産業用は共に増加しておりますが金額的には少額であります。

「中型モータ」の営業利益については当四半期での黒字化達成に向け改善活動を精力的に進めてまいりましたが、今年度第1四半期まで続いた鋼材および銅線のコストアップや車載用モータの研究開発費並びに中国生産の生産能力拡大の先行投資負担を完全に吸収出来ませんでした。

事業区分別情報<機器装置,電子・光学部品,その他>



事業区分別情報<機器装置、電子・光学部品、その他>

「機器装置」事業の売上高は168億86百万円で前年同期比39億09百万円の大幅減収となりました。この事業分野は中間期においても前中間期より減収となっておりますが、当四半期も全般的に回復が遅れております。なお当四半期の前年同期比減少の最大の内容は日本電産サンキョーのロボット関係売上の減少であります。

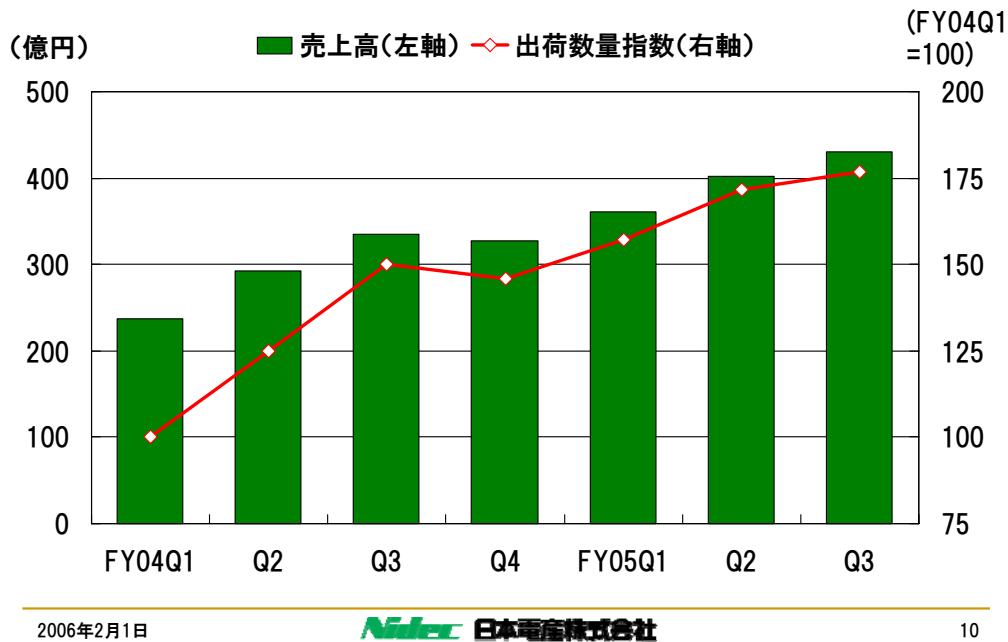
「機器装置」事業における前年同期比較での営業減益は日本電産コパルのラボシステム等の売上減少と日本電産シンポの変・減速機等の収益悪化が主たる要因であります。日本電産サンキョーのロボットシステム等の売上減少は著しかったものの前年同期比較の減益要因とはなっておりません。

「電子・光学部品」事業の売上高は326億40百万円と前年同期比13億86百万円の減収となりました。この事業分野の減収要因は日本電産コパル電子の制御用回転機器が前年同期比約12億円(42%)の減少となったのが最大要因であります。また日本電産コパルのレンズユニット等も新製品の立ち上げ遅れから約8億円(16%)の減収となっております。

「電子・光学部品」事業における前年同期比較での営業減益は売上高の項で説明したとおり、日本電産コパル電子の高採算製品の制御回転機器の売上減少による利益減少が最大の要因となりました。また、日本電産コパルのレンズユニット等においても相当の利益減少となりました。

「その他」の事業の売上高は60億37百万円で前年同期比5億24百万円の増加であります。この増加は、主として日本電産トーソクの自動車部品とピボットアセンブリーの販売増加によるものであります。

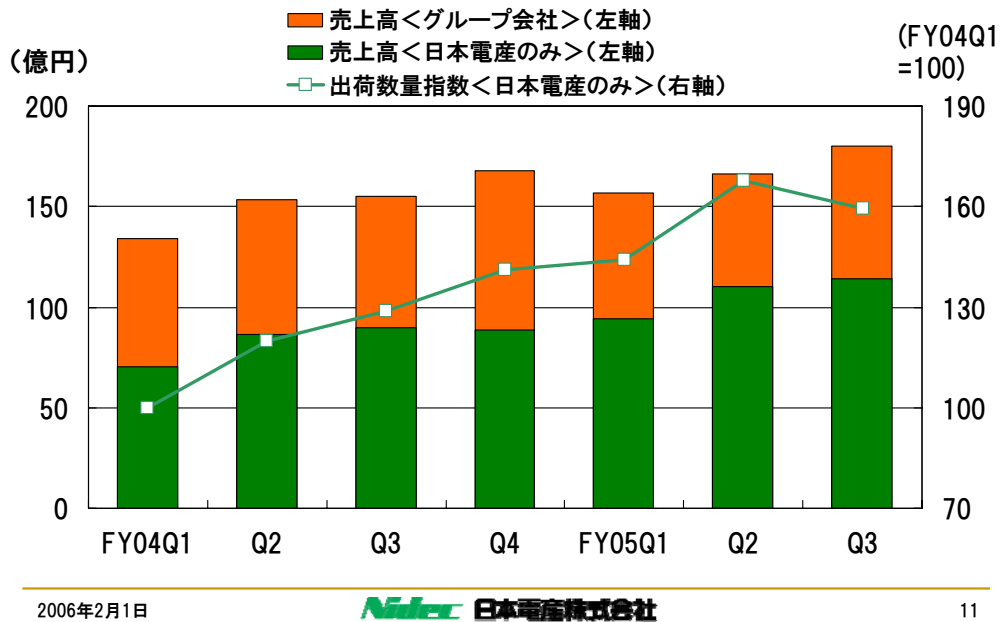
HDD用モータの売上高・出荷数量推移



HDD用モータの売上高・出荷数量推移

HDD用モータは前年同期比約96億円(約29%)の増収であり、販売数量では18%強の増加となりました。平均販売価格は円ベースでは約9%の値上がりですが、円安を加味したドルベースでは2%程度の価格ダウンとなっております。なお、HDD用モータは当四半期も全般的には堅調に推移いたしましたが、マイクロドライブの減少および12月末の最終局面において客先での部材不足や新機種への移行に係わる調整などで急激にJIT在庫の引取量が減少いたしました。この結果当四半期の販売数量は直前四半期比較で約3%の増加に止まりました。また、この影響は2.5インチに顕著に現れており売上高のみならず利益面でもかなりの影響を受けることになりました。

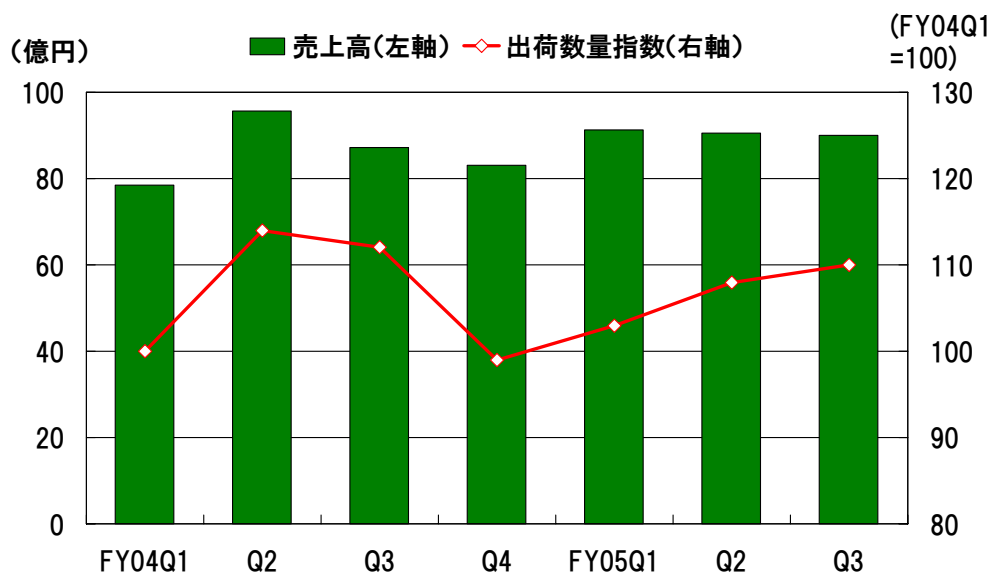
その他DCモータの売上高・出荷数量推移



その他DCモータの売上高・出荷数量推移

DCモータの売上高は前年同期比約25億円(16%)の増加になりました。この増加分は従来の日本電産分の販売増によるものであり、日本電産サンキョー等の取り扱いDCモータはほぼ横這いに止まっております。従って従来の光ディスク用を中心とする日本電産扱いのDCモータのみの前年同期比増加率は27%強となっております。

ファンモータの売上高・出荷数量推移



2006年2月1日

Nidec 日本電産株式会社

12

ファンモータの売上高・出荷数量推移

FANモータの売上高は前年同期比約3億円(3%)の増加となりました。